

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2010年度  
Bコース（組織力アップ助成） 助成事業報告書

2011年 4月 30日

団体名（ふりがな） World Open Heart（わーるどおーぷんはーと）

事業名 犯罪加害者家族支援のスタッフ研修

助成金を使って行った事業について、記述してください。  
（活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください）

犯罪加害者家族支援スタッフ養成講座～知識編～

## 1. リーガルサポート（公開）

日時：2010年8月10日 18:00～20:00

会場：仙台市民活動サポートセンター 研修室3

定員：20名

参加費：1500円（会員無料）



内容：成人と少年の司法手続きの違いについて

講師：長尾浩之（弁護士）ワールドオープンハート顧問

参加者：ワールドオープンハートスタッフ 2名、その他5名

## 2. メンタルサポート（公開）

日時：2010年8月12日 18:00～20:00

会場：仙台国際センター研修室B

定員：20名

参加費：1500円（会員無料）



内容：電話相談対応について

講師：伊藤美奈（精神保健福祉士）ワールドオープンハート顧問

参加者：ワールドオープンハートスタッフ2名、その他4名

## 3. 受刑者とその家族たち（公開）

日時：2010年12月4日 14:00～17:00

会場：仙台市民活動サポートセンター研修室5

定員：30名

参加費：1500円（会員無料）

内容：刑務所、拘置所での被拘禁者の人権問題に関心を持った弁護士や市民が中心となり活動を続けている東京の監獄人権センター理事の桑山氏を迎え、受刑者家族の支援の歴史について学ぶ。

講師：桑山亜也氏 NPO 法人監獄人権センター理事、龍谷大学矯正・保護総合センター嘱託研究員（法学博士・専攻：刑事法）

プログラム：開会挨拶 阿部恭子

基調講演 桑山亜也

対談 桑山氏×ワールドオープンハート顧問 長尾氏、伊藤氏

質疑応答

参加者：8名

\*当日強風の影響で、新幹線が止まり、講師の先生の到着が2時間遅れるというハプニング発生。長尾先生と、伊藤先生、阿部のトークでなんとか繋いだ。参加者も予定者の半分だった。

4. 犯罪加害者家族への心理的サポートの事例研究（非公開）

日時：2010年12月21日 13時～17時

場所：東北大学若島研究室

参加者：ワールドオープンハートスタッフ3名（阿部、愈、張）

内容：これまでワールドオープンハートが行なってきた心理的支援について臨床心理学者からアドバイスをいただく。

第2回 2011年6月1日、7月6日（震災期間の振り替え）

参加者：ワールドオープンハートスタッフ2名（阿部、関）

犯罪加害者家族支援スタッフ養成講座～体験編（完全非公開）～

目的：実際、犯罪加害者家族から話を聞く。①ワールドオープンハート以前に繋がっていた機関や団体について、②必要なサポートについて

第1回インタビュー

日時：2010年11月16日 13:00～17:30

場所：ワールドオープンハート事務所（片平ホワイトレジデンス）

講師：サトウマリコ氏

参加者：ワールドオープンハートスタッフ1名（阿部）

第2回インタビュー & 付き添い研修（関係各所訪問）

日時：2010年11月30日 10:00～15:00

インタビュー場所：官澤総合法律事務所

講師：加害者家族 A氏

参加者：ワールドオープンハートスタッフ3名（阿部、長尾、愈）

第3回インタビュー

日時：2011年12月28日 10:00～12:00

講師：加害者家族 B家族

参加者：ワールドオープンハートスタッフ2名（阿部、張）

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

#### 1. 講座の参加者

養成講座知識編は、講座形式で公開で行なったことからマスコミ関係者、保護監察官、犯罪加害者家族支援の研究を進める大学院生、自立支援事業を行なう団体のスタッフなどが参加し、研修終了後ワールドオープンハートの正会員となり活動を行なっているスタッフが1名いる。

マスコミ関係者や大学院生は、活動に直接参加したいというよりは、加害者家族支援の内容について学習し、それを世の中に伝えたいという間接的な支援者として関わっていきたいと話していた。

#### 2. 新たな関係団体との連携

##### (1) 監獄人権センター

講座開催を通して、連携ルートを確保。通常の活動だけでなく、共同研究も行なっている。監獄人権センターとの協働により、加害者家族支援の全国的な広がりや国際ネットワーク形成の可能性が見えてきた。

##### (2) MCR 家族支援センター

メンタルサポートについては、素人のボランティアスタッフでは限界がある。そこで、講師の若島先生が理事を務めるMCR 家族支援センターにカウンセリングを任せ、協働支援体制を敷くことになった。臨床心理士の介入により、問題解決に繋がっている事例が増えている。

##### (3) ダルク家族会

当事者インタビューの中から連携の要望があったことから、仙台ダルクと連絡を取りイベントの共同開催などを予定している。

##### (4) 飯田橋榎本クリニック

性犯罪者の治療を行なう日本で唯一の病院だということで、当事者インタビューの中から連携の要望が出たことから、病院を訪問し連携を約束。

##### (5) 仙台の弁護士との連携

当事者インタビューにより、信頼できる弁護士として名前が挙がった勝田亮弁護士、草場裕之弁護士にリーガルサポートの協力を要請。

##### (6) 保護観察所との連携

講演後、保護観察所にイベントのチラシを持っていくと回覧をしてくれているようで、保護司や監察官のイベント参加が増えている。また、保護観察所で行なう勉強会にも呼んでいただけるようになった。

##### (7) DV被害、犯罪被害者団体との連携

家族間犯罪の場合、加害者家族であると同時に被害者家族でもあることから、連携のニーズが出ている。団体同士の連携は難しく、対応については被害者支援の専門家である若島先生をお願いしている。

##### (8) 宮城県及び仙台市の国際交流協会

当事者インタビューにより、外国人へのサポートが必要なことが明らかとなった。協会側でも英語対応可能な弁護士を必要としており、長尾弁護士と繋がることになった。

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。

●申請書に記載した成果目標

①研修方法の確立

加害者家族支援を行うスタッフに必要な知識や経験を明らかにする。

②関連団体との連携強化

支援を行うにあたって、ひとつの団体ができる限界を見極める。

③スタッフのスキルの向上

支援内容を充実化させるために必要な研修を行う。

●目標の達成度（自己評価）

①達成度 60% スタッフに必要な知識と体験（実習）が明らかとなった。

②達成度 80% 当事者インタビューにより、障害、依存症、自立支援などとセットの支援が必要なことがわかり、支援団体との連携体制を築くことができた。

③達成度 100% スタッフには当事者と接する経験が必要なことがわかった。

●達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

申請当初は、①スタッフのスキル向上と活動内容の充実化と、②活動に市民を巻き込むことの両方を目的としていたが、②のための大規模な研修会の開催は時間的に難しく、招聘予定の講師とスケジュールが合わなかったこともあり、目的を①に絞る結果となった。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

公開の研修会の参加者数が少なかったことから、市民を巻き込むことが難しい活動であることを実感した。研修会の参加者へのインタビューから、犯罪加害者家族支援の内容について「関心がある」ということと、実際「活動に参加する」ということは大きく異なるということがわかった。団体の活動が、クローズアップ現代で取り上げられたことや、幻冬舎新書『加害者家族』の出版により、加害者家族への社会的関心は高まっており、マスコミも注目しているが、やはり犯罪の少ない日本においては当事者意識が薄い。「かわいそう」「誰かなんとかしてあげてもいいのではないか」という声が出てきているが、自分のこととしては考えたくないところが本音だと感じる。

本事業によって構築されたネットワークにより、3月5日に行なわれたシンポジウム「犯罪に巻き込まれた人々のケア～犯罪加害者家族支援を考える～」の開催を実現することができた。

これまで「話を聞くだけ」に終わっていた相談が、ネットワーク構築により、問題解決に繋がっている。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

犯罪加害者家族支援は、研究、啓発活動などの「間接的支援」と相談、付き添いなどの「直接的支援」に分けられるが両者は平行して行なわなければならない。間接的支援により人々への理解を広め、寄附などの経済的な支援を得ることにより、「直接的支援」の実現が可能になる。間接的支援への協力者を募ることは難しくないが、直接的支援における相談は、カウンセリングなどの専門的なスキルや知識を必要とする部分が多く、ボランティアでは限界があることから臨床心理士や精神保健福祉士、社会福祉士などに協力を要請することが望ましい。

運営の面において、加害者側の支援は、論争的なテーマであることから、クレーム対応のスキルやスタッフのモチベーションを上げるためのリーダーシップも重要な課題である。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。

また、その際に必要なものは何ですか。

本事業により確立した犯罪加害者家族支援のノウハウを保護司や矯正関係者を対象とした公演やボランティア養成講座を開催することによって、全国的に広めていきたい。実際、東京では2月に監獄人権センターなどの協力を得、東京ボランティアフォーラムで加害者家族支援の分科会を設け、分科会最多数の集客を記録した。その他の県で同様のイベントを開催するには現地の協力者が必要であり、さらなる全国的なネットワークの形成が必要である。

また、本事業により確立したノウハウを発展させ、「犯罪加害者家族支援」という本を出版することを計画している。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

### 収入の部

項目	金額（円）	内訳
ろうきん地域貢献ファンド助成金	200,000円	
会費・寄附	67,227円	賛助会費2000円×10名、正会員費10,000円×1名、寄附金37,227円
合計	267,227円	

### 支出の部

項目	金額（円）	内訳
会場費	4,800円	セミナー仙台市市民活動サポートセンター研修室5（800円×5h＝4000円）研修室3（400円×2h＝800円）
講師謝金	140,000円	セミナー講師桑山氏（4万）若島氏3万×2回（6万）インタビュー加害者家族1万円×2名、県外からの家族2万円（4万円）
通信費	99,550円	HP制作費、管理費96,600円 郵送費2,950円
印刷製本費	17,243円	チラシ15120円、印刷費2123円
消耗品費	5,634円	コピー用紙、文房具、封筒
合計	267,227円	

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

本事業を通して、協力団体が増え、全国的なネットワークの形成に踏み出すきっかけができました。また、当事者から直接話を聞くという体験は、活動の意義について改めて考えさせられるきっかけとなり、団体内部の団結力の強化に繋がりました。活動が広がっていくなかで、さまざまな利害関係や社会的圧力も出てくると思いますが、活動を続けていくためのモチベーションを左右するのは、やはり「当事者」だと思いました。これからも当事者の声を世の中に伝え、ニーズに沿った支援活動を地道に続けていきたいと思っています。

貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。今後さらなる発展に向けて頑張りたいと思います。

ワールドオープンハート 一同